

令和 8 年ホヤ類調査結果速報 No. 3

令和 8 年 8 月 28 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

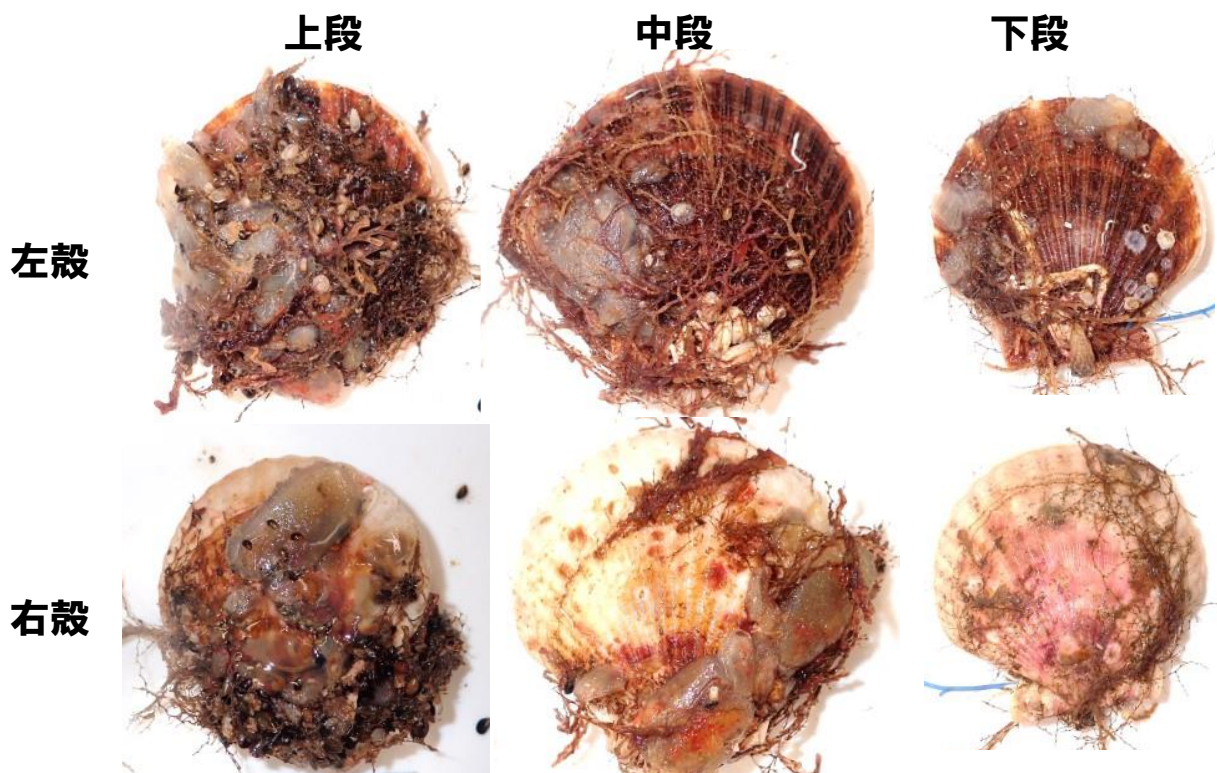
※この速報は[函館水試HP](#)でも見ることができます。「[函館水試](#) ホヤ情報」で検索。

8 月 24 日に渡島管内八雲町内浦地区で耳吊ホタテガイ付着物調査および海洋環境調査を実施しました。

結果概要

- **ヨーロッパザラボヤの付着数は R3 年以降で最も多い。**
ホタテガイ 1 枚あたりの付着数は 54.3 個/枚であり、昨年同時期（8.9 個/枚）を大きく上回りました。
- **最近付着したとみられる体長 5mm 未満の個体が最も多い。**
付着数が前回から大きく増加し、小型個体が大半であることから、新規付着が継続しているとみられます。
- **付着物除去作業（貝洗い）の準備を進め、近年よりも早めの作業開始を推奨。**
近年は付着数が少なかったため、9 月以降の増重は緩やかでした。しかし、今年は近年よりも大きな増重が見込まれます。

写真 ホタテガイに付着したヨーロッパザラボヤ 令和 8 年 8 月 24 日 八雲町内浦地区



※肉眼で確認できない微小個体も多数付着

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・馬場 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和 8 年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：8月24日、調査場所：八雲町内浦沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（写真）。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり54.3個体であり、平年の65.1個体（H27～R6年の平均値、以降同様）に迫り、昨年の8.9個体を大きく上回りました（表1、図1）。これはR3年以降で最も多い付着数です。また、付着したヨーロッパザラボヤの体長は5m未満が最も多く（図2）、新規付着が続いているとみられます。

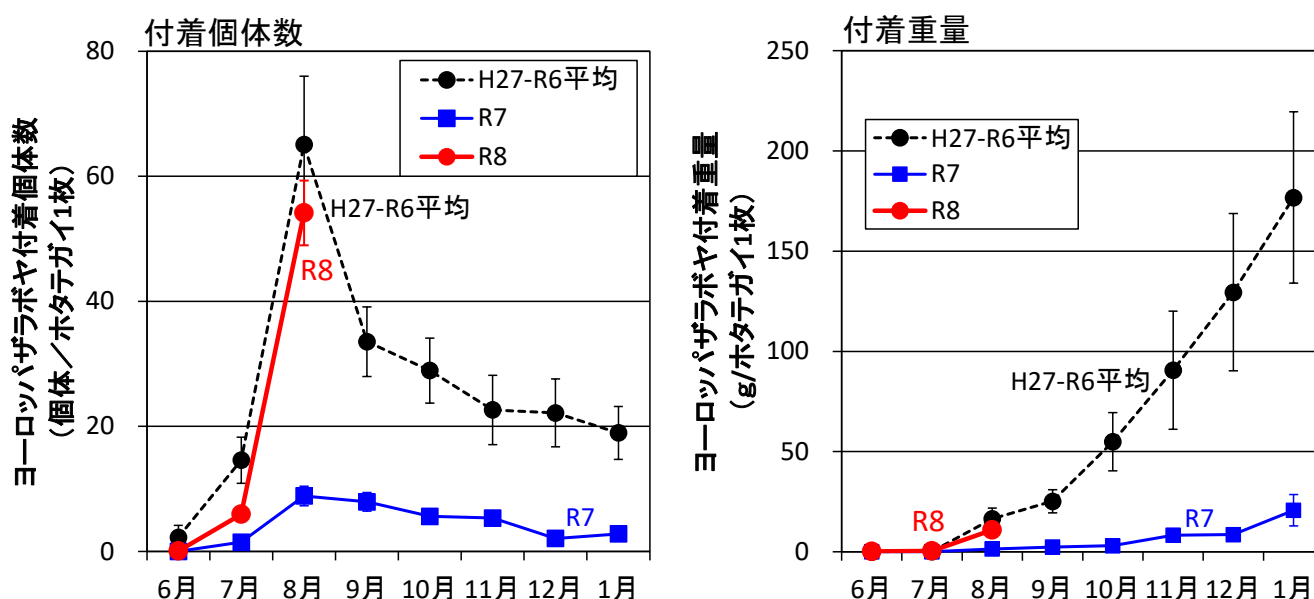
表面～5m層の水温は昨年よりも低いものの、23℃以上の高水温になっています（図3）。また、ほとんどの深度層でヨーロッパザラボヤの産卵開始水温を上回っています。

昨年は8月の付着数が少なく、付着重量の増加も緩やかでしたが、平年の付着重量は9月以降に急激に増加します（図1）。今年は平年と類似した付着重量の増加が見込まれますので、付着物除去作業（貝洗い）が遅れると、付着重量が近年よりもかなり重くなる恐れがあります。貝洗いの徹底と早期の作業実施を推奨します。

表1 付着生物調査結果（八雲町内浦地区：令和8年8月24日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	65.8g	42.8g	8.2g	39.0g
ヨーロッパザラボヤ	12.3g	16.6g	3.9g	10.9g
その他	53.6g	26.2g	4.3g	28.0g
ヨーロッパザラボヤ個体数	36.2個体	72.6個体	54.0個体	54.3個体
令和7年8月（R7.8.25）の個体数	10.4個体	9.8個体	6.4個体	8.9個体
令和6年8月（R6.8.28）の個体数	11.4個体	6.2個体	8.2個体	8.6個体
令和5年8月（R5.8.24）の個体数	33.6個体	35.6個体	21.0個体	38.9個体

図1 ヨーロッパザラボヤの付着量の季節変化



左：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

右：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。

図 2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲町内浦地区：令和 8 年 6～8 月）

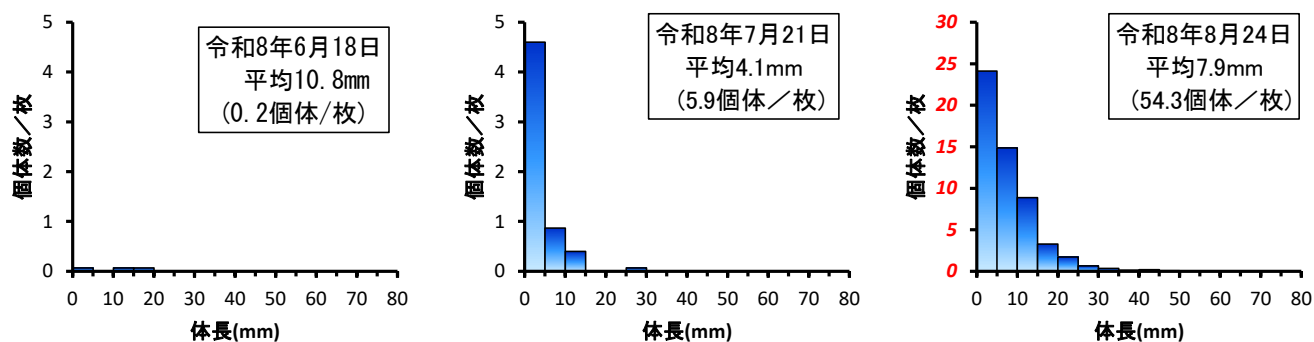


図 3 調査地点近傍（八雲沖 3 マイル）の令和 8 年 8 月 24 日の水温の鉛直分布

● : R8 年、▲ : R7 年、× : H27-R6 平均 — : ヨーロッパザラボヤの産卵開始水温 (13℃)

